

看護基礎教育における心理学講義に関する一考察 知識と実践の統合に向けて

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター

看護専門学校准看護学科に「患者の心理」という講義が設置され、講師として半年間の講義を行った。その経験が、看護教育の中で教えるべき心理学とは何か、看護実践につながる心理学とは何かなど、看護と心理学の関係を考えるきっかけとなった。本研究では看護基礎教育での心理学講義の計画と内容を検討することを目的に、面接調査や文献研究を行い考察した。

第1章 研究1：現任教育における心理学の位置づけ（面接調査）

看護臨床で行われる現任教育において心理学が関与できる教育領域を考察することを目的に、K病院看護部における現任教育プログラムを調査した。現任教育プログラムを検討したところ、今後人間観・看護観の育成や人間関係調整能力の育成、ストレスマネジメント、リスクマネジメント、看護研究などの領域で臨床心理学、社会心理学、性格心理学、心理学研究法や統計法が求められるのではないかという結果になった。

第2章 研究2：臨床の看護者が求める心理学（面接調査）

心理学を大学で学んだ看護者たちの意見から看護臨床のどのような場面で心理学の必要性を感じたか、心理学教育はどうあるべきかを考察した。心理学に関心を持つきっかけは看護基礎教育にも看護臨床にもあること、看護実践のための心理学的知識や手法よりも科学的思考や研究の方法論を学ぶ講義が楽しかったこと、看護基礎教育での心理学には一般的な心理学から多角的な人間理解の方法を教えるのがよいと思われることなどがわかった。

第3章 研究3：看護学生が関心をもつ心理学（文献研究）

先行研究より看護学生たちが心理学にどのような関心を抱いているか、求められている心理学講義の内容とはどのようなものかを考察した。心理学の有用観は全体的に高く、対象の特性（准看護学校生は実践力を求められるので知覚・認知の領域に対する有用観が低いなど）や関心にあわせた講義内容を工夫することが重要であるということがわかった。

第4章 研究4：心理学の講義計画と内容についての考察（文献研究）

先行研究より心理学講義計画と内容について考察した。心理学専攻ではない学生たちを対象とする場合、教育目標をどのように設定し、限られた時間でより効果的に心理学を教授するにはどのような工夫が必要かを把握しなければならない。フィールドワークや実験、グループワーク、自己分析や知能テストなど講義において体験を伴う授業は学生の関心を引くものと思われるが、本来専攻している領域が別にある場合には課題量が多すぎると負担感を増やすだけであることに留意する必要があるということが明らかになった。

第5章 研究5：看護教員による心理学の認識（面接調査）

基礎分野での心理学だけでなく専門分野においても心理学を教授する必要性があり、専門分野においては看護実践につながられる心理学が求められていることがわかった。調査の結果、専門分野の授業で用いられているのは主に発達心理学や臨床心理学、健康心理学など

の領域であった。心理学の基礎的な知識は基礎分野の心理学系講義で得ていることが前提となっており、理論や概念を看護に応用した形で教授されていることが明らかになった。したがって基礎分野で教授されるべき心理学の内容としては、専門分野において看護実践と結びつけることができるように内容を選択していかなければならない。

第6章 総合的考察：看護基礎教育における心理学講義のあり方

研究1～5にて得られた結果と考察をもとに看護基礎教育における心理学講義について検討し、授業計画と内容を提案した。まず心理学の講義として与えられた時間数の半分を「一般的な人間理解」に、半分を「医療の場における人間理解」にあてる。前半部分では「心理学とは何を研究する学問か」という点から出発し、発達・学習・記憶・行動・集団・社会・対人・性格・不安などの領域について主に講義形式を中心に教授する。要所で看護との関わりをも示していく他、各領域における日常生活上のトピックスや実験の紹介を行い、対象である看護学生たちの関心をそらさないように工夫することが必要である。後半部分では臨床心理学と健康心理学についての講義となる。看護臨床での事例提示・解説や、グループワークで相互理解を深める方法やコミュニケーション演習なども積極的に取り入れてみたい。そして年間講義が終了した時点で、講師による自己評価と受講学生による他者評価を行う。1年の講義を教授する側とされる側が振り返り、今年度の反省と次年度への課題を明らかにする。これらが本研究のまとめとして考案した授業計画である。

教授者は教育目的にあわせて講義形態を選択する必要がある。教育対象の特性を知り教育目的を設定すること、看護基礎教育で教授するべき心理学の内容を検討することと平行して、どのような教授法が心理学学習に有効なのかという点について十分に検討することが求められる。心理学の学習では看護実践に直接役立つ知識を習得することもさることながら、看護を行う学生個人の成長を促す目的が大きい。それがやがて看護実践につながっていくと考えられるため、心理学の知識や理論、技術を教授することは重要だが学生個人の精神面での成長発達を支援することも心理学の役割であると結論づけた。